

派遣審判報告

- 1、報告者 黒滝 和司（小田原） 稲垣 吏絵（横浜）
- 2、使用大会 第34回 関東ミニバスケットボール大会
- 3、大会期間 平成25年1月13日（日）・14日（祝）
- 4、会場 さいたま市記念総合体育館
志木市民体育館
- 5、大会レベル 関東1都7県代表 男女各18チーム（開催県4チーム）
- 6、審判動向 1月12日（土） 審判会議・開講式・講義
1月13日（日） さいたま市記念総合体育館（予選リーグ）
1月14日（祝） 志木市民体育館（決勝リーグ）
- 講師 吉田 憲生氏（埼玉県バスケットボール協会 審判部長）
伊藤 裕一氏（埼玉県バスケットボール協会 副審判部長）

7、報告

講義 1月12日（土） 講師 吉田 憲生氏
確認事項「2人の協力、試合をスムーズに行う為に」

① まず何を行うか

自分がリラックスするよう心がける。緊張感も大事だが過緊張にならないように自分なりのリズムを作る。毎回同じことの繰り返すことで自分のリズムを崩さないようにすることが大切。

② ゲーム前

ゲーム前には何を行うか。たとえば、コートを確認することも必要なことであるし、会場の雰囲気の確認もよいのではないかと。また、プレゲームカンファレンスでは相手審判とコミュニケーションをとりながら、試合前に確認しておくことをしっかりと行う。その中で、視野分担や位置取りの確認、ダブルホイッスルの時どちらがレポートに行くのか等と合わせて、現在の自分の課題等を情報交換することにより、スムーズな試合の運営を行うこと



ができる。さらに、スムーズな試合運営に欠かせないのがTOとの協力で、責任範囲の確認等と同様に重要な要素でもある。その他として、担当ゲームのチームを知っているのならチーム情報の共有をしておくが良い。

③ ゲーム直前

確認事項としては、TO機材、ブザーの音量、タイムアウト表示の等の確認を行う。試合前のオポジットサイドではチーム練習を見ながらチームの情報収集を行う。スピードや身長など目で見て情報収集する事が必要である。



④ ゲーム中

ゲーム中は、プレゲームカンファレンス通りにならない事は多々ある。たとえばマニュアルを崩さなければならない等、タイムアウトの際にはしっかりとコミュニケーションを取り、2人で気を配り気になる点を共有することや残り時間、得点、ショットクロック、チームファウルやオルタネイト等、表示されている情報を常に確認する事が必要である。

⑤ ベンチ等との関わり方

ベンチ等との関わりでは、クレームへの対応やTOとの関係も重要である。例えばトラブルが発生した時の対応。特にミニバスケットのTOは小学生が行うことが多いので操作ミスで失敗が起きる可能性が高いのではないかと。そのような時に失敗した子供たちは不安な思いから、再び失敗してしまうのではないかとということも想定し、再度トラブルにならないよう対応する等、子供たちの不安感を排除するような気遣いも必要である。TOミスの際に起きるベンチからのクレームに対しては、それ以上子供たちに影響を及ぼさないようにするため、時に毅然として対応する事も必要である。

講習のテーマでもある2人の協力と試合をスムーズに行うために必要な事や実際の担当ゲームで普段通りの力を発揮するためのヒントなど、ご自分の実体験を踏まえた話を伺う中で、今後の審判活動を行う上で非常に参考になるものでした。

【担当ゲーム：黒滝 和司】

1月13日（日） 予選リーグ（男子）

赤 堀（群馬）－ 松江キッズ（東京）

主 審） 吉田 憲生氏（本部）

副 審） 黒滝 和司

主 任） 小柳 幸子氏（埼玉）

<ミーティング内容>

（小柳氏）

色々な事に気を遣っている事が伝わってきた。

ジェスチャーやTOコールも丁寧でゆっくり行われ分かりやすかった。

（吉田氏）

ファーストコールのブロックショットに対するトルソーの触れ合い（入り方）をもっと確認して鳴らす。コンタクトが大きくても小さくても、鳴らすか鳴らさないかを判断するために確認し見極める事が必要である。



1月13日（日） 予選リーグ（男子）

FFファイヤーズ（埼玉）－ NCベアーズ（茨城）

主 審） 中島 孝博氏（群馬）

副 審） 黒滝 和司

主 任） 竹澤 友美氏（埼玉）

<ミーティング内容>

途中までは良かったがショットクロックの成立がうやむやになり表現が周囲に伝わっていなかった。またタイムアウトの請求がいつ来たのかも確認できていなかった。

出血したプレイヤーの交代についても、いつ出血したのかも確認ができていない為、確認不足が目立ってしまった。

1月14日（祝） 決勝リーグ（女子2位）

夏見台小（千葉）－ 吉川（埼玉）

主 審） 伊藤 裕一氏（本部）

副 審） 黒滝 和司

主 任） 横山 稔氏（本部）

<ミーティング内容>

（横山氏）

2人で相手の見えない所をカバーし合い、視野分担やエリア分担をお互いに意識しアイコンタクトをしながらポジションを変え判定する事ができていた。

第1ピリオドは基準を作ろうと無理に鳴らしにいった様子が見られたが、第2ピリオドから修正し、2人が必要な時だけ笛を鳴らす事でゲーム運営がスムーズになりとても良かった。

(伊藤氏)

トレイルでエリア3～4へボールが渡った時に追いすぎたポジショニングとなっている為もう少しボールを間接視野で見る事も訓練した方がよい。ルーズボールからヘルドボールになる時に見切りが早すぎて成立してない時に笛が鳴ってしまう傾向がある。

1月14日(祝) 決勝リーグ(男子2位)
ガリバージュニア(埼玉) - 小山Spirit(栃木)
主 審) 大網 康志氏(千葉)
副 審) 黒滝 和司
主 任) 伊藤 裕一氏(本部)

<ミーティング内容>

見切りが早い間違った判定や笛がマッチしなくなることがあった。

【担当ゲーム：稲垣 吏絵】

1月13日(日) 予選リーグ(男子)
小張小(茨城) - FFファイヤーズ(埼玉)
主 審) 伊東 龍一氏(栃木)
副 審) 稲垣 吏絵
主 任) 飯塚 剛氏(東京)

<ミーティング内容>

試合の入りから、積極的に一つ一つの判定を丁寧にしている姿勢は良かった。第3ピリオドに確認不足で判定したことやファウル種類に違和感があったこと等がゲームをスムーズに進行できなかった理由ではないか。ディレクションの示し方では修正した方がいいものがあるので、再度振り返ること。また、走り方、特にバックステップ等、工夫すること。



1月13日(日) 予選リーグ(女子)
吉川(埼玉) - 龍ヶ崎(茨城)
主 審) 小池 佳生氏(山梨)
副 審) 稲垣 吏絵
主 任) 吉田 憲生氏(本部)

<ミーティング内容>

トレイルからリードに入るのが早すぎる。2人の距離が遠くなり判定不能な場面がある。もう少し踏みとどまってもよい時がある。ディレクションが早い。キレがあるのがすべていいとは限らない。ゆっくり示すことが必要な時がある。リードの時に、ゴール下にいる時間が長く、判定できないことが多くみられる。淡々としていて笛の強さ、キレといった思い切りが良い所がよくでていた。今後もその自分らしいレフリーは強みであるので続けてほしい。

1月14日（祝） 決勝リーグ（女子1位）
大和田（埼玉） — 南光（群馬）
主 審） 吉田 憲生氏（本部）
副 審） 稲垣 吏絵
主 任） 川津 太志氏（埼玉）



<ミーティング内容>

いい判定もあったが、ボール中心となり相手のエリアを吹いてしまうことがあった。入りが悪く、第3ピリオドから触れ合いに対して過敏になり、1ゲーム通して考えると基準はどうか振り返ってほしい。プレイの決着が早すぎる。ジャストで鳴らすことも大事だが、ゆとりを持って吹く場面も必要である。リードの動きが止まっている。予備動作をしながら準備をしておくこと。

1月14日（祝） 決勝リーグ（男子1位）
八千代（茨城） — 宗岡（埼玉）
主 審） 渡辺 信也氏（山梨）
副 審） 稲垣 吏絵
主 任） 森田 純平氏（埼玉）

<ミーティング内容>

合わせのプレイが多く、2人の協力が多く求められた。ビッグセンターに対しても、2人で視野分担をしていたが、ゲーム中にもっと修正が必要だった。リードで右に行くのが遅いので後手になっているケースがある。オフェンシブなプレイに対しては、2人の基準をすり合わせていければもっと良かった。

8、大会を通して

関東ミニバスケットボール大会に派遣頂きありがとうございました。今回学んだ事、また再確認できた事は、TOの大切さです。普段、コートに立ち何をどれくらい気にしているか。審判は2人で協力し、試合を進行していますが、やはり運営を成功させるにはTO、得点板、モップ、TO主任等、このクルーが揃っていなければ試合は開始されませんし運営できません。TO（スコアラー・タイマー・アシスタントスコアラー・30秒ショットクロック）の役割、得点板を捲る役割、モップをかける役割（プレイヤーに思い切りプレイをしてもらう為に取り組んでいる）、それぞれ自分の役割を果たしているからこそ試合が成り立っているのだと思います。埼玉関東のTOクルーは、3ヶ月間の練習を行い、「大会を成功させる為に」という思いを持っていました。だからこそ私たち審判はもっとTOクルーにも気を遣い、プレイヤーに良い試合を行ってもらう為に日々訓練し、選手の為にレベルアップをしていかなければならないのだと感じ、再確認しました。

最後になりましたが、大会期間中、埼玉県バスケットボール協会の講師の皆様、埼玉県ミニバスケットボール連盟審判員の皆様、派遣審判員の皆様に大変お世話になり心より感謝し御礼申し上げます。また、大変貴重な経験をさせて頂いた神奈川県バスケットボール協会、神奈川県ミニバスケットボール連盟の方々に心より感謝し御礼申し上げます。ありがとうございました。

（黒滝 和司）

関東ミニバスケットボール大会に派遣いただきありがとうございました。普段、自分で気づいていないことや、改善すべきと注意されていること、初めて知ることなどいろいろな経験ができました。昨年の夏の関東大会派遣では他県の方と一緒に吹く時に相手はどう吹くのが気になってしまい、自分の思い切ったレフリーができなかったので、今回はまず、その課題をクリアすべく強い気持ちで積極的にプレイをとらえられるよう望みました。その結果、前回とは違う部分での反省をいただけるようになりました。まずスペースをとらえられていないのに吹くケース、確認不足で吹くケースをなくしたいと思います。そしてオフェンスの意図したプレイができているのかどうかよく見極めて判定をしたいと思います。また埼玉県ミニバスケットボール連盟に所属されている女性の日本公認の方が20名いると伺い、大変驚きました（男性含めると60名所属）。ミニ連盟への登録チーム数は埼玉県と神奈川県と同数くらいですが、神奈川県ミニ連盟所属の女性公認数は現在4名です。女性審判の方とたくさん話す機会があり、その結束力の強さを感じました。これから神奈川に戻り、是非多くの女性審判に公認を目指したいと思えるような雰囲気作りに力を入れたいと感じました。

大会期間中お世話になりました講師の皆さま、埼玉県バスケットボール協会及び埼玉県ミニバスケットボール連盟の審判員並びに大会役員の皆さま、派遣審判員の皆さまに心より御礼申し上げます。また、派遣の機会を与えてくださった神奈川県バスケットボール協会、神奈川県ミニバスケットボール連盟の方々に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

（稲垣 吏絵）